

## 栃木県及び周辺の地震活動（令和5年11月）

### 【地震活動概況】

今期間、県内で震度3以上を観測した地震はありませんでした（前月なし）。

期間内の県内の最大震度は2で、震度1以上を観測した地震は7回（前月8回）でした。

### 【栃木県及び周辺の地震活動】

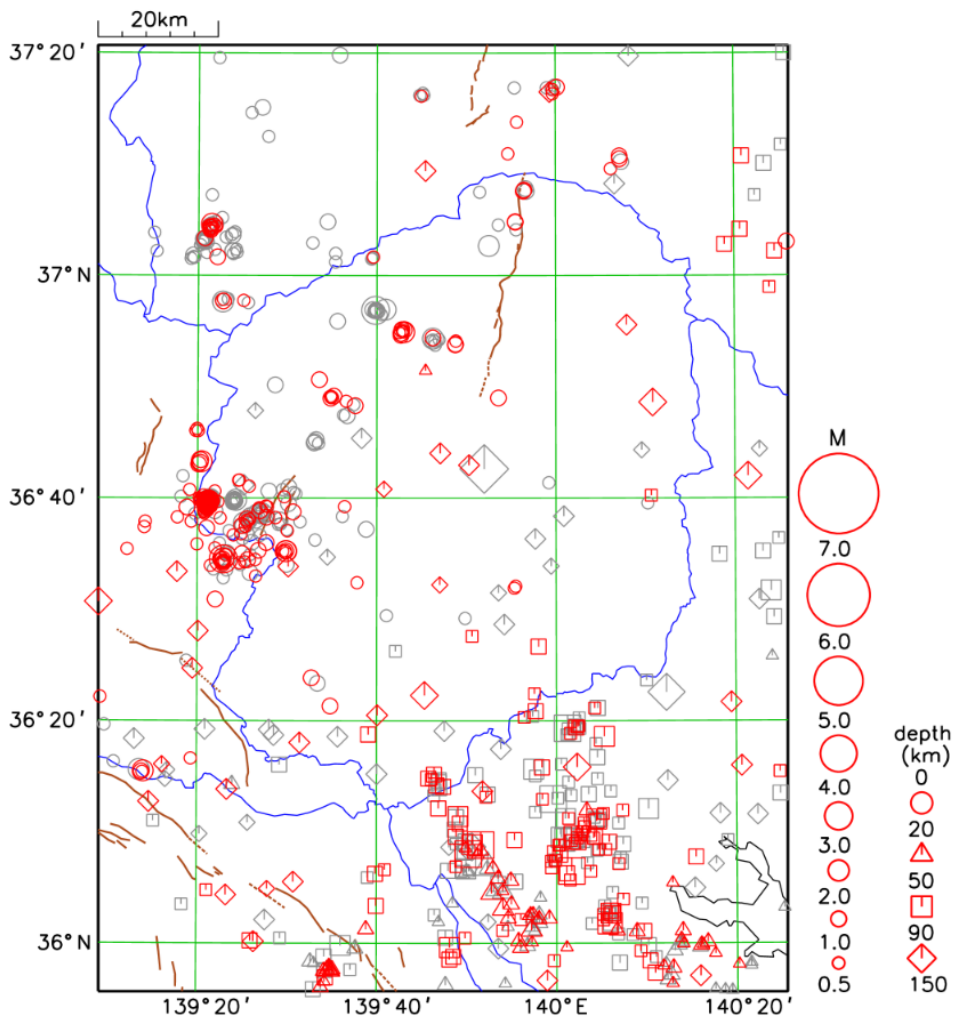


図1 震央分布図（2023年10月1日～2023年11月30日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・Mはマグニチュードで0.5以上、深さ（depth）は150kmまでの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがあります。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成しました。

## 【11月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	11月1日	3時08分	茨城県南部	36° 08.8'	139° 51.5'	50	3.8	2	2
2	11月6日	2時10分	福島県沖	37° 49.7'	141° 37.7'	56	5.0	4	1
3	11月10日	10時00分	神奈川県西部	35° 31.6'	139° 26.4'	105	4.2	3	2
4	11月16日	12時28分	福島県沖	36° 55.9'	141° 11.0'	52	4.0	2	1
5	11月19日	8時00分	茨城県南部	36° 08.0'	139° 50.1'	50	3.0	1	1
6	11月25日	10時54分	茨城県北部	36° 27.7'	140° 36.1'	55	4.1	2	2
7	11月25日	23時32分	茨城県沖	36° 32.5'	140° 39.0'	57	3.7	2	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については気象庁HP等で確認して下さい。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

## 【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

## 【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

## 【防災メモ】今市地震

今から84年前の1949年12月26日朝、栃木県北部の旧今市市付近で今市地震が発生しました。コンクリートの土間にあった釜が約25cmほど飛び上がったという証言もあるほどの下から突き上げるような揺れが市街地を襲い、多数の地すべり・山崩れが起きたほか、死者・行方不明者10名、家屋の全半壊約3300棟という大きな被害が出ました（図2、被害出典は日本被害地震総覧）。

この地震の特徴として、マグニチュード（以下、M）6クラスの地震が短い間隔で2回発生したことが挙げられます。1回目の地震は午前8時17分（M6.2）、2回目の地震は午前8時24分（M6.4）に発生しましたが、後の報告によれば主に被害をもたらしたのは2回目の地震によるものとされています（昭和24年12月栃木県地震調査報告（気象庁）より）。これについては2回目の地震のほうが規模が大きいことももちろんありますが、1回目の地震の影響もあったということは容易に想像できます。それにしても、たった数分で大きな揺れに2回も見舞われた当時の人たちの不安は大変大きなものだったのではないのでしょうか。

現代に生きる私たちにとっても、大地震が発生した後にさらに大きな地震が来るかどうかは気になるところですが、今では気象庁が地震後約1～2時間後を目途として、これまでの科学的知見に基づいた地震活動の見通しを発表しています（図3）。一方で、今市地震のように数分で次の大地震が起きてしまう場合も十分に考えられます。その場合でも、緊急地震速報等を利用しながら最低限身を守る行動がとれるよう、日々心づもりをしておくことが大切です。

・地震から身を守るために

[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin\\_bosai/index.html](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html)

・緊急地震速報を見聞きしたときには

<https://www.data.jma.go.jp/eev/data/nc/koudou/koudou.html>

・大地震後の地震活動（余震等）について

[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/aftershocks/index\\_whats\\_aftershock.html](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html)

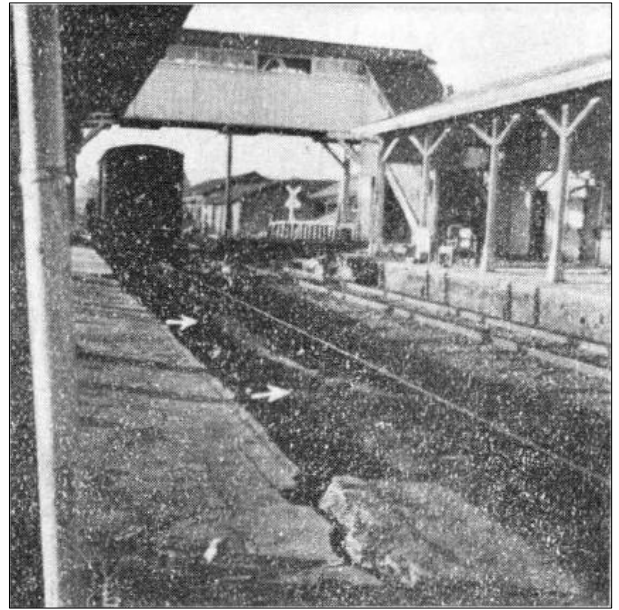
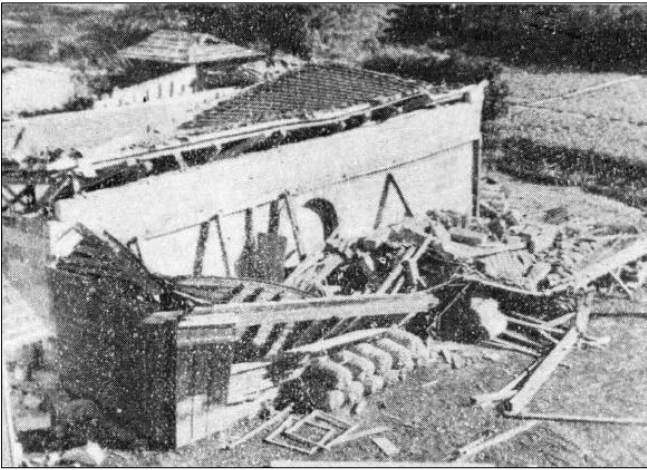


図2 1949年今市地震後の被害写真（昭和24年12月栃木縣地震調査報告（気象庁）より）  
 左上：河内郡大沢村（現日光市）農業倉庫の瓦解  
 左下：上都賀郡落合村（現日光市）石造家屋の被害  
 右上：国鉄（現JR）今市駅プラットホームの破損

令和5年5月5日21時58分頃の石川県能登地方の地震について

## 防災上の留意事項と今後の見通し

**（防災上の留意事項）**  
 この地震による津波の心配はありません。  
 揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

**（今後の見通し）**  
 この領域では、本日（5日）日中に最大震度6強の地震が発生しています。過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、引き続き、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。  
 また、この地域では、2年以上地震活動が続いており、当面、継続すると考えられますので、引き続き注意してください。

図3 防災上の留意事項と今後の見通し（令和5年5月5日21時58分石川県能登地方の地震の報道発表資料より）  
 大地震発生後の今後の地震活動の見通しが明記されている（赤下線は元資料に追記）。

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260